



安来市立病院

地域連携室つうしん

NO.57
令和6年5月



地域医療や在宅医療を支える病院として

事業管理者 山崎泉美



公立病院には、「行政や医療機関、介護施設等と連携し、地域に必要な医療を、公平・公正・継続的に提供し、住民の生命と健康を守り、地域の健全な発展に貢献する」という大きな使命があります。

安来市立病院におきかえると、高齢化や人口減少に直面している安来市において、「市民の皆さまが、住み慣れた地域で、適切な医療を受けながら安心して暮らしていけるように、地域医療提供体制の構築に向けて現状をしっかりと捉え、地域の医療ニーズに応えていくことが私たちの使命である」と言えます。

当院は地域医療や在宅医療を支える病院として、令和6年度から、「安来市立病院経営強化プラン」を基に、地域のニーズに応える医療機関へと転換を図りながら、経営基盤の強化を進めてまいります。地域を見つめ、不足している医療サービスを洗い出し、限られた医療資源を最大限に活用し、どのように対応していくのかを考え、実践していくことこそが重要です。

今年度は、外来や救急などの診療体制を見直してのスタートとなります。医師の働き方改革も始まります。新型コロナウイルス感染症の動向も気になるところです。今の段階では予測しがたい点も多く、当面は状況を見ながら対応をしていくこととなりますが、いつ、いかなる時であっても、「患者様のために」そして「地域の皆様のために」安来市立病院は地域医療、在宅医療を支える病院としてその役割を果たしていきたい。

リアルタイム遠隔医療システムの導入について

経営管理課 課長 藤原 渉

近年、医療現場において遠隔医療の需要が増えています。この度、当院では企業版ふるさと納税を活用し、ヘルスケア IT 企業のウィーメックスとの協力により、リアルタイム遠隔医療システム (TeladocHEALTH: カメラ付きモニター1台、カメラ付きタブレット3台) を導入しました。これにより、専門医の少ない医療機関と遠隔地の専門医との連携が強化され、地域の医療現場の発展の寄与につながると期待しています。当面は、この遠隔医療システムを院内で活用していくこととしておりますが、将来的には、訪問先で使用する在宅医療での活用や、市内外の医療機関と連携が図れるような運用も考えていきたいと思っております。

今後も、より充実した医療サービスを提供するために、新たな取り組みを積極的に行いながら、経営強化プランに基づき、公立病院としての使命を果たしていきたいと思っております。



◆リアルタイム遠隔医療システムの特徴

医療機関と遠隔地の医師をオンラインで繋ぎ、リアルタイムで症状や診断結果を共有することができます。超音波診断装置などの周辺医療機器との連携も可能であり、患者さんの状態を迅速に把握することができます。システムには高解像度カメラも搭載され、遠隔地の医師がリアルタイムで操作を行うことが可能です。



鳥大病院から転院され、自宅で看取りを行った一症例

事例紹介

A氏 73歳 男性 居住地：上山佐
 病名：前立腺癌（骨転移、リンパ節転移）
 方針：緩和治療（BSC）
 家族：妻と2人暮らし
 長女は広瀬在住 次女は安来市内在住
 退院前ADL：自立（伝い歩き）
 在宅療養期間：4カ月

経過

2022.4.12 鳥大病院より、当院へ転院
 鳥大病院で化学療法実施 薬剤の変更に伴い食欲不振や倦怠感が増強し本人より、これ以上の治療を希望されず、疼痛管理、緩和治療、在宅復帰支援のため転院となる鳥大病院医師より、余命1〜2カ月と妻へ説明受けている
 2022.4.21 退院

入院中の本人家族の思い

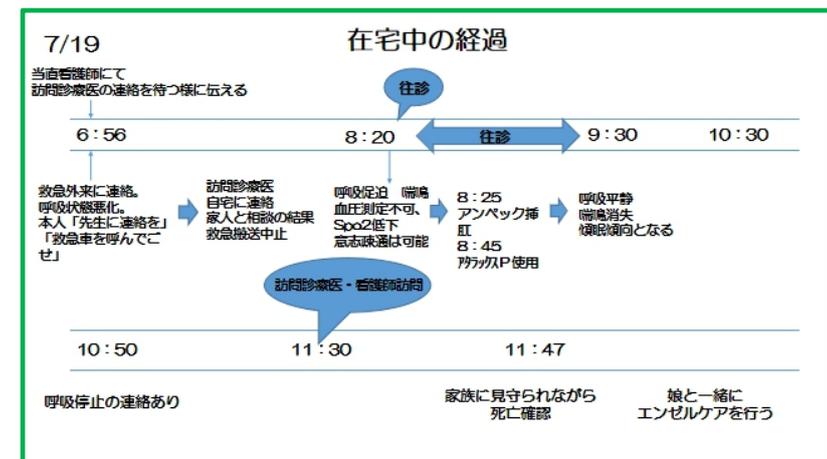
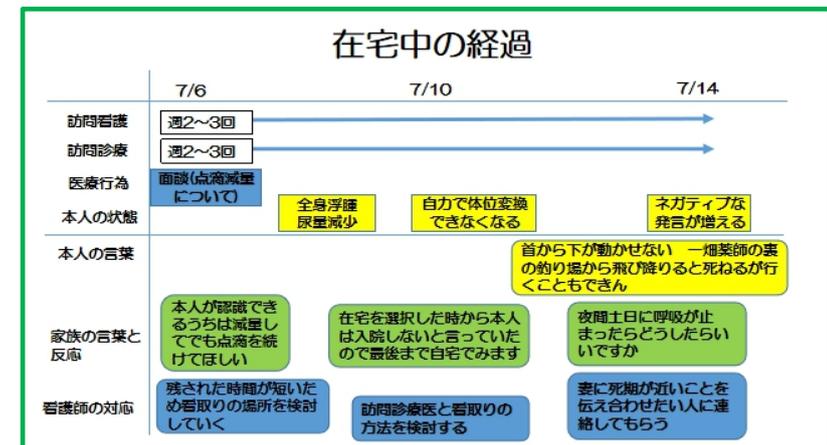
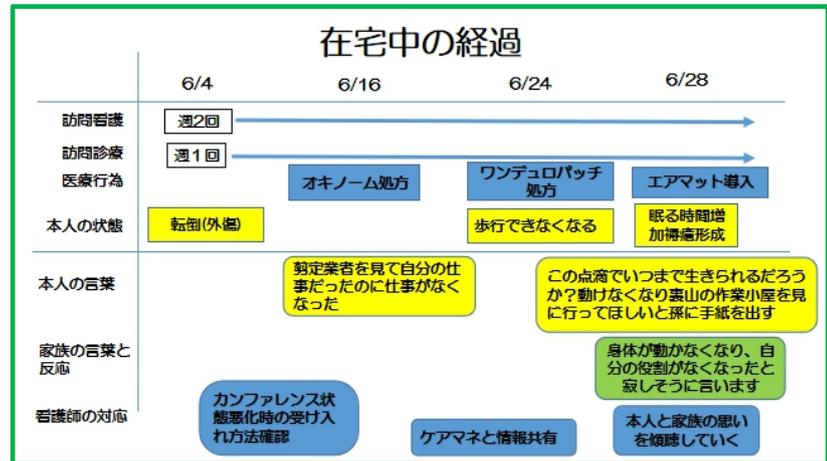
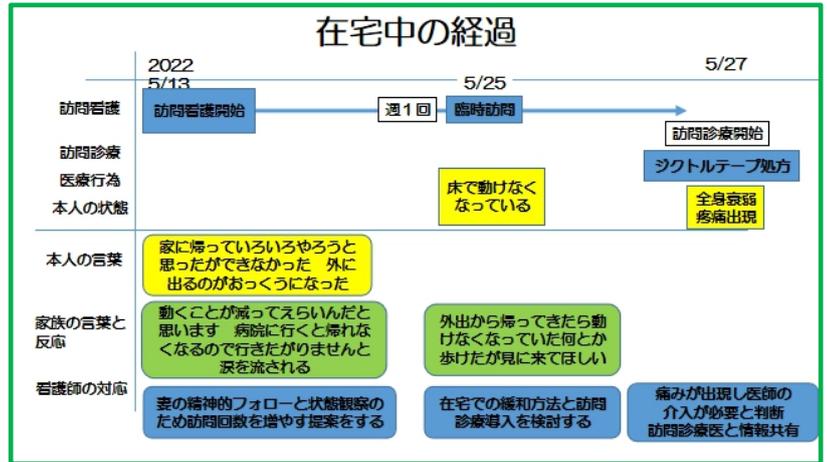
- ・本人
早く帰って剪定などしたい
- ・妻
かなり厳しい状況と聞いています
治療しないと云っているので元気なうちに家に連れて帰りたい。本人は良くなると思っています。

死後の家族の思い

- ・妻
長い間一緒にいましたが、こんなに長い時間二人でいたことが無かったので、色々なことを話しました。皆さんのおかげで看取れました。
- ・長女
鳥大病院から退院した時から入院はしないと云っていましたが自宅で見守ることができて良かったです。本人の思う様になりました。ありがとうございました。

最後に

在宅で看取りを行う場合、「治療」から「緩和」へと変わり、限られた時間をどう過ごすか、本人や家族と相談しながら、最後の時を迎えます。
 日々変化していく病状を、そばで見守っている家族は、つらくなったり、これで良いのかと迷ったりします。
 そんな思いを訪問看護師は受け止め、寄り添い、どうしたらいいのか一緒に考えます。
 「やりたいこと」、「やっておきたいこと」、「前もって準備が必要なこと」、「いよいよという時期」を逃さないように、穏やかに最後を迎えられるように関わっています。



地域連携室よりお知らせ

令和5年度4月に、在宅医療充実のために在宅支援係を設置し一年が経過しました。地域連携室に訪問看護師とセラピストが常駐することで、医療・介護との連携に一定の役目を果たしてきたのではないかと自負しております。今後も、皆様方と病院を繋ぐ重要な窓口として今後も邁進いたしますので、是非お気軽にご相談ください。

また、レスパイト入院も随時受け付けておりますので、在宅介護にお困りの方がいらっしゃいましたら、いつでもご相談ください。申込用紙とお電話での申込をお願いいたします。

空床情報は当院ホームページに掲載しております。QRコードもしくは、「安来市立病院」で検索の上ご確認ください。

地域連携室は、開業医の先生方はじめ、地域の皆さまのお役に立てるように尽力いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。



左から、竹田、山本、田中、安部、岡野、祖田、金山、玉木



病院QRコード

安来市立病院 地域連携室

- ・連携室長：竹田裕司
- ・在宅支援係：田中詳子、岡野由香里、安部容子
- ・地域連携係：山本啓輔、玉木直之、祖田成子
金山亜友里

受付時間 8:30~17:00

【TEL】 0854-32-2333

0854-32-2441

【FAX】 0854-32-2335